

大学生と農山漁村との連携事例



京都精華大学

実施主体名：京北宇津宝さがし会

担当窓口

京北宇津宝さがし会(顧問:田村有香 国際文化学部
人文学科教員、藤枝絢子 国際文化学部グローバルス
タディーズ学科教員)

URL

seika-keihoku.com



活動内容

自然と歴史と豊かな文化に恵まれながらも過疎化・高齢化が進んでいる京都市右京区京北の宇津地域において、地域の方々の協力を得ながら地域の魅力（宝）さがしを行っている。伝統料理の再現を試みたワークショップ、空き家や休耕地の利活用、地域の将来を担う子ども達との交流、地域資源を盛り込んだ案内看板の作成など、多岐にわたる活動を行っている。



きっかけ

活動を開始したのは2013年のことである。地域に住む人物から、地域住民が高齢化し将来が心配だという話を聞いたことがきっかけとなった。宇津自治会を通して地域の方々との交流が始まり、地域のことを学ぶワークショップや地域行事の運営補助などから徐々に活動の範囲を広げていった。



展望

2020年ごろから、地域の空き家を利用した活動拠点の整備が始まった。ここは学生の地域での活動拠点であると同時に、地域住民との交流拠点としても利用していく。また休耕地の利活用にも取り組み、農作物を育てている。ゆくゆくは宇津ブランドの加工食品などを開発し、仕事づくりとともに魅力の発信を行っていききたい。



活動拠点の空き家（宇津塾）と畑



耕作作業の様子



苗の植え付け作業の様子